

評価結果公表票

作成日 平成21年1月13日

【評価実施概要】

事業所番号	0270301104
法人名	医療法人 仁泉会
事業所名	グループホームしろがね
所在地	青森県八戸市大字白銀町字田端6番地1号 (電話)0178-32-1577
評価機関名	社会福祉法人青森県社会福祉協議会
所在地	青森市中央三丁目20-30 県民福祉プラザ2階
訪問調査日	平成20年10月20日

【情報提供票より】(平成20年9月14日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成13年4月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	16 人	常勤	12人, 非常勤 4人, 常勤換算 14人

(2)建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 一部鉄骨造り		
	2階建ての	1~2	階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	水光熱費 9,000 円
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	—
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり		1,000 円

(4)利用者の概要(9月14日現在)

利用者人数	17 名	男性	1 名	女性	16 名
要介護1	7 名	要介護2	3 名		
要介護3	5 名	要介護4	2 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 83 歳	最低	68 歳	最高	98 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	シルバー病院 山本歯科医院
---------	---------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

今年度から理念に地域との関係を盛り込み「私たちは思いやりを持って、こころよく、地域に愛され安心して暮らせるグループホームをめざします」という理念を掲げ、管理者はじめ全職員がその実践に向けて日々取り組んでいる。

ホームは、開設当初から地元の町内会に加入しており、清掃活動や運動会等様々な行事にも積極的に参加し交流をしている。また、運営推進会議を通して、地域の方に参加を呼びかけ、認知症普及活動の一環として認知症教室を開催したり、推進会議のメンバーを中心とした緊急連絡網の体制をつくるなど、地域を巻き込んだ活動を積極的に行っている。

介護計画の作成に当たっては、センター方式のアセスメント表を活用し、利用者や家族から要望や生活歴等を把握するほか、日々のコミュニケーションの中からその思いを引き出す努力をしている。また、利用者3人を職員2人が担当し、担当者間の協議を土台にカンファレンスでの全職員による話し合いに進むという体制で取り組んでいる。ケアカンファレンスに家族も同席して貰う方向で取り組んでおり、各々の意見や思いを吸い上げた計画を目指している。

【特に改善が求められる点】

特になし

【重点項目への取組状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の外部評価結果を受け、スタッフ会議や運営推進会議等で意見交換や改善点等の検討をし、サービスの向上に向けた取組を行っている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取組状況(関連項目:外部4)</p> <p>評価のねらいや意義を学習しながら、全職員で取り組んでおり、今後に活かす気づきや、確認・検討する良い機会と前向きにとらえている。外部評価結果は率直に受け止め、スタッフ会議や運営推進会議等で意見交換や改善点等の検討をし、サービスの向上に向けた取組を行っている。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取組(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>会議は隔月で開催し、地域の中にホームへの理解が深まってきていることもあり、メンバーの参加率も良い。</p> <p>また、会議では率直な質問・要望等意見交換が出来る関係が築かれており、自己・外部評価の結果を報告し意見を収集し、ケアサービスに反映させるよう努めている。</p> <p>認知症の勉強会や緊急連絡網を作成するなど、具体的な成果に繋がっている。</p>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部10, 11)</p> <p>毎月1回のお便りが担当職員から定期的に届けられており、健康状態や受診状況、お知らせ等が記載されている。金銭管理については、毎月の請求書郵送時に個々にお小遣いの出納簿とレシートを同封し定期的に報告している。</p> <p>苦情等の受付窓口を重要事項説明書に明記し、ホーム内にも掲示しているほか、玄関にご意見箱を設置している。</p>
重点項目③	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>開設当初から町内会に加入したり、運営推進会議を通して近隣住民へ働きかけを行っており、積極的に交流を図っている。また、認知症教室を開催したり、推進会議のメンバーを中心とした緊急連絡網の体制をつくるなど、地域を巻き込んだ活動を積極的に行っている。</p> <p>広報誌を各戸に回覧しており、ボランティアの募集や認知症やホームの役割を地域住民の理解してもらう取組を実践している。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>開設当初から町内会に加入したり、運営推進会議を通して近隣住民へ働きかけを行っており、積極的に交流を図っている。また、認知症教室を開催したり、推進会議のメンバーを中心とした緊急連絡網の体制をつくるなど、地域を巻き込んだ活動を積極的に行っている。</p> <p>広報誌を各戸に回覧しており、ボランティアの募集や認知症やホームの役割を地域住民の理解してもらう取組を実践している。</p>

【各領域の取組状況】

領域	取組状況
I 理念に基づく運営	<p>前回の外部評価改善項目として取り上げられていたため、全職員で検討及び見直し、「私たちは思いやりを持って、こちよく、地域に愛され安心して暮らせるグループホームをめざします」という、全職員の思いを結集し地域との関係を盛り込んだ理念が作成されている。ホールに大きく掲示し、スタッフ会議やカンファレンス時等日常のケアに関連した場面で取り上げ共有に努めている。</p> <p>運営者は、外部研修への参加を積極的に促しており、全職員が公平に研修を受けれるよう配慮するなど、職員のスキルアップのための取組は積極的である。</p>
II 安心と信頼に向けた関係作りと支援	<p>利用者一人ひとりの事情に即した支援ができるよう、個々に利用者本位の対応を心掛けている。また、十分な話し合いと意向の把握を行った上でサービスの開始となるよう配慮している。</p> <p>利用者が興味を持てる日課や特技、趣味などを共に行い、生き甲斐に通じるよう支援している。</p> <p>調理や後かたづけ、手工芸品の製作、家庭菜園、詩作等様々な分野で個々に得意な力を継続して発揮できるよう職員の見守りと支援が行われている。</p>
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	<p>センター方式のアセスメント表を活用し、利用者や家族から要望や生活歴等を把握するほか、日々のコミュニケーションの中からその思いを引き出す努力をしている。また、担当者間の協議を土台に全職員でのカンファレンスを行う体制で取組んでいる。</p> <p>ケアカンファレンスに家族も同席して貰う方向で取組んでおり、各々の意見や思いを吸い上げた計画を目指している。</p> <p>毎月、再アセスメントの上、見直しを行っている。また、身体状況の変化や、家族からの要望があれば、随時見直しを行っている。</p>
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	<p>理念に掲げているように思いやりをもって利用者の言葉に耳を傾け受容する態度で臨むよう心掛けており、職員は穏やかに利用者へ接し声がけするなど、人間性を尊重する態度で接している。</p> <p>職員は、利用者一人ひとりの生活歴や要望、力量を把握し、野菜作りや食事の準備、詩作の得意な利用者の作品を広報に掲載するなど利用者の経験や特技を発揮できる場面を作り役割や楽しみ事として行っている。</p> <p>食事の時には、利用者の間に職員も席を設け、同じ食事を摂り、さり気なくサポートしながら楽しく会話を交わしながらの食事をしている。</p>

評 価 報 告 書

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを 期待したい 項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	管理者や職員は地域密着サービスの役割を理解しており、全職員で検討し、「私たちは思いやりを持って、こころよく、地域に愛され安心して暮らせるグループホームをめざします」という、全職員の思いを結集し、地域との関係を盛り込んだホーム独自の理念が作成されている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ホールに大きく掲示し、スタッフ会議やカンファレンス時等、日常のケアに関連した場面で取り上げ共有に努めている。また、全員で考えた理念であり、具体的な日々のケア場面での実践に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	4	○隣近所、地域とのつきあい及び地域貢献 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけあったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるよう努めている。事業所は地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。また、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。担当職員はキャラバンメイトになるなど、地域の認知症普及活動に参加している。	開設当初から町内会に加入したり、運営推進会議を通して近隣住民へ働きかけを行っており、町内会の清掃活動や運動会等様々な行事にも積極的に参加し交流を図っている。また、普及活動の一環として認知症教室を開催したり、推進会議のメンバーを中心とした地域緊急連絡網の体制をつくるなど、地域を巻き込んだ活動を積極的に行っている。ホームの広報紙は町内会を通し各戸に回覧しており、ボランティア募集を呼びかけたり、認知症やホームの役割を地域住民の理解してもらう取り組みを実践している。利用者の個人情報保護については、個別ファイル等を事務室で保管するなど十分配慮している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	5	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	運営者や管理者、職員は評価のねらいや意義を理解しており、自己評価等は全職員で取り組み、今後にかす気づきを発見したり、確認・検討する機会となっている。外部評価結果を受け、スタッフ会議や運営推進会議等で意見交換や改善点等の検討をし、サービスの向上に向けた取り組みを行っている。		
5	6	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議は隔月で開催し、率直な質問や要望等の意見交換がされるほか、自己・外部評価の結果を報告し改善策等の意見を引き出し、ケアサービスに反映させるよう努めている。また、認知症の勉強会や緊急連絡網を作成するなど、具体的な成果に繋げている。		
6	7	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、運営や現場の実情等を積極的に伝える機会を作り、考え方や運営の実態を共有しながら、直面している運営やサービスの課題解決に向けて協議し、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	ホームの広報紙は定期的に配布しており、自己評価や外部評価についても運営推進会議を通して報告を行っている。また、個々の課題に関しての相談等の機会を持ち、連携のきっかけ作りに努めている。		
7	8	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	外部研修に参加しているほか、内部研修等で全職員が共有し理解を深めるよう努めている。現在、制度を利用されている方はいないが、今後、必要に応じて情報の提供や支援を行う体制が整っている。		
8	9	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部勉強会の実施により全職員が共有し理解を深める取り組みをしている。職員の心身の変化に注意して観察することで早めに悩みや迷いを解消するよう気配りをして防止に努めている。虐待を発見した場合は、職員間の連携により管理者への報告に繋がる体制となっている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制					
9	10	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書をもとにホームの理念やケアの方針を説明し、時間をかけて話し合う事で悩みや意向などを引き出しているほか、改訂時や退去時にも説明を行い、理解を得るよう努めている。退居時は利用者や家族に不安のないような体制を整えて情報提供し支援している。		
10	12	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月、一人ひとりの健康状態や受診状況、お知らせ等が記載されたお便りを作成し配布している。また、毎月の請求書郵送時にお小遣いの出納簿とレシートを同封し報告している。職員の移動等は広報誌でお知らせすると共にホーム玄関待合にユニットごとの職員名を掲示している。		
11	13	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時の他、毎月のケアプラン見直し時に個々に説明をしながら要望や意見等を引き出すように努めている。苦情等の受付窓口を重要事項説明書に明記し、ホーム内にも掲示しているほか、玄関に意見箱を設置している。		
12	16	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者は職員の異動による利用者への影響について理解しており、最小限に抑えるよう配慮している。交代時には引継ぎに十分な日数を掛けており、また新人職員を配置する際にも利用者や家族に十分時間をかけて説明するなど、コミュニケーションを深める努力をしている。また、家族には面会時や広報紙に掲載し周知している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
13	17	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間研修計画が作成されており、職員の力量に応じて全職員が外部研修に参加できるような体制であり、勤務体制にも柔軟に対応し、業務に支障のないように配慮している。研修終了後は復命書を作成し報告するほか、伝達研修を行っている。職員にとっては管理者が、管理者にとっては事務長が良きアドバイザー的存在となっている。		
14	18	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域のグループホーム連絡協議会に加盟し、外部研修へ積極的に参加させ同業者との交流を図るほか、法人内のグループホーム間で新人交換研修を開催し、日々のケアサービス向上に活かせるように取組んでいる。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	23	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者一人ひとりの事情に即した支援ができるよう、利用者本位の対応を心掛けている。また、十分な話し合いをし、双方の意向に沿った上での利用となるよう配慮している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	24	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者が興味を持てる日課や特技、趣味などを共に行い、一緒に喜びを分かち合っており、生き甲斐に通じるよう支援している。また、調理や後かたづけ、手工芸品の製作、家庭菜園、詩作等様々な分野で個々に得意な力を継続して発揮できるよう職員の見守りと支援がなされている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
17	30	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式のアセスメントによる情報と利用者一人ひとりとコミュニケーションの中で把握するよう努めている。毎月のケアプランの見直しがされ、様々な方向から全職員が利用者を観察し、気づきをケアプランに取り入れているほか、必要に応じて家族から情報収集を行っている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	33	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	センター方式のアセスメント表より、利用者や家族の要望や生活歴等を把握するほか、日々のコミュニケーションからその思いを引き出すよう努めている。また、担当者間の協議を土台に全職員によるカンファレンスを行う体制で取り組んでいる。またケアカンファレンスに家族も同席して貰う方向で取組んでいる。		
19	34	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の実施期間は明示されており、毎月再アセスメントの上、見直しを行っている。また、身体状況の変化や、家族からの要望があれば、随時見直しを行っている。毎月の見直しという、きめ細かな観察を目指しており、常に利用者・家族の思いを吸収しようという姿勢で取組んでいる。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
20	36	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	系列の訪看ステーションとの24時間の医療連携体制が整っている。また、かかりつけ医への受診介助、毎月の行事の中でレクリエーション等の外出支援を行っている。将来的に短期入所体制も整えたい意向がある。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21	40	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者や家族が希望する医療機関での受診を支援している。また、母体病院との医療連携体制が整っており、体調変化等の際は迅速に対応でき、利用者や家族がいつでも相談できる体制がある。受診結果は家族にお便りや電話等にて随時報告し、必要に応じて話し合いを持ち、共有が図られている。		
22	44	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	契約時に事業所としての方針の説明をし、状況変化に応じて対応するという体制である。また、24時間の医療連携体制が整っており、かかりつけ医並びに家族との意志統一が図られている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
23	47	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は穏やかに利用者に接し声がけしており、人間性を尊重する態度で接している。個人情報保護については、法人研修等において学習し理解を深めており、記録等は事務室の鍵のかかる場所に保管し、ホールでも利用者等の目に触れないよう配慮している。		
24	49	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりのペースを尊重して接しており、ゆったり見守りながら歩調を合わせる対応が取られている。また、日常のサービス業務を振り返り、利用者の気持ちを思いやるケアの大切さをスタッフ会議等で職員全員が共有している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	51	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、可能な場合は利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の嗜好の把握がされており、苦手なものは代替の食材を提供する等の対応がなされている。利用者が積極的に調理や後片付けを行っており、食事の際は職員も同じ食事を摂り、さり気なくサポートしながら楽しく会話を交わし食事をしている。		
26	54	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴習慣を把握し、週2日中で可能な限り利用者の意向に沿った支援を行っている。入浴を拒否する方に対しては、時間帯をずらしたり、足浴等を勧めるなど工夫を行っている。職員と1対1で入浴しており、安全と羞恥心に配慮しながら適切な支援をしている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	56	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	職員は、利用者一人ひとりの生活歴や要望、力量を把握している。また、普段の生活の中から、希望を引き出すようにしている。野菜作りや食事の準備、詩作の得意な利用者の作品を広報に掲載するなど利用者の経験や特技を発揮できる場面を作り役割や楽しみ事として行っている。		
28	58	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	敷地内の歩道を車椅子が通れるよう整備し、そこで日光浴をしたり、食材の買い物に利用者も同行するなど日常的に外出している。また、花見や果実狩りなど外出の機会を作っている。外出の際には、車椅子やリフト付き車両を使うなど身体状況に合わせた支援を行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(4)安心と安全を支える支援					
29	62	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	外部研修や職員会議を通して身体拘束について学習し理解を深めている。また身体拘束は行わないという姿勢で日々のケアに取り組んでいるが、やむを得ず身体拘束を行う場合は、理由や方法、期間や経過観察について記録を残す体制となっており、家族へ説明と同意がとれる体制が整っている。		
30	63	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関は日中は開放しており、居室等の施錠は利用者の意向に添った支援を行っている。外出傾向を察知した際は、職員が付き添う等見守り支援を行っており、無断外出時に備えて近隣住民を中心に協力体制が得られている。やむを得ず施錠を行う場合は、家族への説明と同意を得ている。		
31	68	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回、昼夜を想定した非難訓練を実施しているほか、消防署の指導のもと通報訓練等も行っている。また、全職員が救急救命講習を受講している。災害時には緊急連絡網において地域住民が駆けつけるなどの協力が得られる体制となっているほか、飲料水や缶詰パンなどの食料も用意している。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
32	74	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	旬の野菜をとり入れた、バランスの良い献立が作成されている。1日摂取カロリーは概ね1400kcalであり、食事や水分の摂取量は個別に毎日記録している。法人内の栄養士に献立や栄養バランスについてアドバイスを受ける事が出来る。		
33	75	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症の予防・対策マニュアルが作成されており、必要に応じ見直している。職員は研修で学習しており、保健所やホームの関連機関から情報を収集して、早めの対応をしている。得られた情報はホームに掲示したり、便りなどで家族に情報提供している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
34	78	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム内に置のスペースを設けたり、物干し台や箒、ちりとりが下げてるなど、家庭的な雰囲気作りを行っている。職員の立てる物音や音楽等の音量、窓からの日射しや照明は適当である。玄関先やホーム内に季節のお花を置いたり、献立に季節の旬の素材を使う等の工夫をしている。		
35	80	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者によってはお仏壇を置いたり、テレビや衣類に囲まれて居心地良い部屋作りをしている方も居り、家族の理解も得られる様に働きかけている。それぞれの状況にあわせて、一人ひとりが居心地良く過ごせる居室作りを行っている。		

※ は、重点項目。